

知事あつ旋で納得へ

水俣市 漁協 すわり込みを中止

水俣病関係の被害補償を要求して新日窒東京本社前に座り込みをつづけていた水俣市漁協の松田組合長ら代表三千四人は、二十日条件つきで寺本知事にあつせん依頼を決め、二百ふりに座り込みを中止した。

さる十三日の国会水俣病特別対策委員会は知事あつせんによる解決の線を打ち出し、石原水俣市助役斎所、鬼塚同市議会水俣病特別委員の正副委員長が十八日に、湖上同市議長、松本、山岡同市議も十九日にそれぞれ上京。病人が出る恐れもあり、地元で紛争解決に努めてはどうかと県選出国會議員らと説得をつづけた。これに対して松田組合長ら漁協代表は「金額が示されるまでは死んでも痛れぬ」と強硬だったが、事態を憂慮した寺本知事が十九日正午すぎ「あつせんを引き受ける用意がある」と申し出たことから、これを依頼するかどうかを協議するところまで態度を改めた。

村、矢嶋、谷口の県選出国會議員、井出県東京事務所長、湖上水俣市議會議長らが二十日午前十二時から衆院第一議員会館特別室に集まり、漁協代表に知事

あつせんでまとまるよう説得した。その結果、松田組合長ら漁協代表は●漁協をソソホ棧敷に置いて話を進めないこと●知事の相談相手を選ぶ場合、厳正中

立て漁協の納得のいく人を選んで欲しいこと、の二つの条件つきで知事にあつせんに頼むと正式に態度を表明した。

そこで会社側から千原専務、久山水俣工場総務部長を呼んで意見を求めたところ、会社側も賛成、舞台は東京から再び地元へ移ることになった。なお座り込みを中止した漁協代表三千四人は上野駅前のふじや旅館に一泊、二十一日引き揚げる予定。

▽松田水俣市漁協組合長の話 話がまとまりホッと一息ついた。みんなの健康状態もギリギリのところだった。きょうはひさしぶりに旅館で風呂にも入って疲れをいやすつもりです。(東京支社)

熊本県選出国會議員と善後策を協議する漁協代表たち(衆院第一議員会館で)＝電送＝

